

美里工業高等学校 令和5年度 家庭総合シラバス

科目名	対象学科・学年	単位数	履修	使用教科書
家庭総合	調理科2学年 設備工業科3学年	2	必履修	「家庭総合 持続可能な未来をつくる」第一学習社

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な知識と、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。

期	月	学習項目	学習内容（ねらい） および評価の観点	a	b	c	評価方法
	4	6章 衣生活をつくる 第1節 人の一生と被服					
		1. 私たちと衣生活	<ul style="list-style-type: none"> 被服は、気候・風土によって異なる一方、人生という長い時間軸で見ると、ライフステージによっても違ってくことを理解する。 乳幼児期、児童期・青年期、壮年期、高齢期ごとに、衣生活の留意点を学ぶ。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 ワークシート（活動） プリント学習 定期考査
	5	2. 被服の機能－保健衛生上の機能	<ul style="list-style-type: none"> 被服の持つ保健衛生的な機能を生かし、望ましい着装について考える。 被服の素材やデザイン、着装の工夫によって快適な被服気候をつくり出せることを理解する。 	○	○	○	
		3. 被服の機能－社会生活上の機能	<ul style="list-style-type: none"> 被服の持つ社会的・文化的な機能を生かし、望ましい着装について考える。 すべての人が楽しめる衣生活の実現がめざされていることを理解する。 	○	○	○	
1 学期	6	4. 被服の選び方	<ul style="list-style-type: none"> アパレル産業の発達による既製服化の現状を知る。 品質表示をもとに取り扱い表示やサイズ、着心地、動きやすさ、縫製の善し悪しなどを調べることの重要性を理解する。 取り扱い表示の種類と意味、サイズ表示の見方について理解する。 	○	○	○	
		第2節 被服材料と管理					
		1. 被服の素材	<ul style="list-style-type: none"> 織物と編物の違いを知る。三原組織の交錯の仕方、メリヤス組織について理解し、身近な事例を取り上げて確認する。 着心地に影響する布の性能について理解する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 ワークシート（活動） プリント学習 定期考査
		2. 洗濯方法と表示	<ul style="list-style-type: none"> 湿式洗濯と乾式洗濯それぞれの特性を理解したうえで、品質に応じて洗濯することを学習する。 	○	○	○	
		3. 洗濯のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 界面活性剤の働きを知り、環境に配慮した洗濯の工夫について考える。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 実験レポート提出
		4. 被服の手入れと保管	<ul style="list-style-type: none"> 適切な被服の手入れと保管方法について理解する。 漂白・のりつけ・アイロンかけなどの手順を知る。 	○	○	○	
期	月	学習項目	学習内容（ねらい） および評価の観点	a	b	c	評価方法
	7	第3節 これからの衣生活					
		1. 衣文化の継承と創造	<ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統衣装についての理解を深め、伝承に努める姿勢を身につける。 「和服」と「洋服」との違いを知る。 平面構成と、立体構成との違いや、特徴を理解する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 ワークシート（活動） プリント学習 定期考査
		2. 持続可能な衣生活	<ul style="list-style-type: none"> 近年の消費行動の多様化・個性化が多量の死蔵品を生む要因となっていることを理解し、消費のあり方を考える。 中古衣料のリユースやリフォームの工夫をする。 	○	○	○	

2 学 期	9	第4節 被服の製作						
		1. 私たちの被服ができるまで	・被服（洋服）を観察し、その構造を知る。 ・被服製作の手順を理解する。	○	○	○		
		2. 体型と採寸	・自分の身体寸法にあわせて、既製服を正しく選ぶための採寸の方法を学ぶ。	○	○	○		
		被服製作実習 ①被服製作用具 ②ミシンの使い方	・被服製作を通して、基礎的基本的な縫製技術を身につけることができる。 ①被服製作技術検定4級程度の基礎縫い ②被服実習（トートバッグ製作 予定）	○	○	○	・実習作品の発表 ・ノート提出	
期	月	学習項目	学習内容（ねらい）および評価の観点	a	b	c	評価方法	
2 学 期	10	7章 住生活をつくる 第1節 人の一生と住まい						
		1. 私たちと住まい	・昔の住宅から現代の住宅までの日本における住まいの変化を理解し、それぞれの時代の家族のあり方や住まい方を考える。 ・日本各地に見られる特徴的な住まいを比較し、住まいは、条件の異なる地域の気候や風土に応じてつくられたことを理解する。	○	○	○	・授業態度 ・ワークシート（活動） ・プリント学習 ・定期考査	
		2. 平面図の活用	・家族の生活行為と住空間とのかかわり、生活行為や動作に必要な広さ、動線などについて理解する。 ・住んでいる人の暮らしを平面図から読みとり、望ましい間取りを考えることのできる能力を養う。	○	○	○		
		3. 住まいのインテリア	・自分らしい生き方を意識し、自分のライフスタイル（暮らし方や好み）にあった住まいの条件を考える。 ・インテリアの基本を理解し、個性的で居心地のよい部屋づくりを考える。	○	○	○		
	2	5	4. 長く住み続けるために	・長期優良住宅など、住まいを長く使い住み続ける工夫を知る。 ・住宅性能表示制度など、良質な住まいを安心して取得するための法制度について知る。	○	○	○	
			5. 生涯を見通した住まいの工夫	・人生における各ライフステージに必要とされる居住条件と住まい方について考える。 ・最近の住まいに見られるユニバーサルデザインを研究し、住まいの中で工夫・改善していく方法を考える。	○	○	○	
				第2節 住生活の計画と選択				
	11	1	1. 快適で健康な住まい	・日照・採光・通風・温度・湿度・遮音などの住環境が、健康な生活に大きな影響を与えることを理解し、衛生的な室内環境を整備するためには、どのような工夫が必要か考える。	○	○	○	・授業態度 ・ワークシート（活動） ・プリント学習 ・定期考査
			2. 安全で安心な住まい	・地震などの自然災害や、火災などの人的災害への対策について考える。 ・家庭内事故を防止するためにはどのような安全対策が必要か考える。	○	○	○	
			3. 持続可能な住まい	・さまざまな生活条件を持った人びとが、安心して住めるよりよい住環境について考える。 ・自然環境や社会環境と住生活の関連について調べ、今後の住生活のあり方について考える。	○	○	○	
4. 住まいと地域社会のかかわり			・住生活基本計画ではどのような住まいがめざされているかについて、関心を持つ。	○	○	○		
8 章 経 済 生 活 を つ く る 第 1 節 私 た ち の 暮 ら し と 経 済		1	1. 人生とお金	・個人や家族の生活目標を実現するためには、経済計画が必要であることを理解する。 ・家族のリスクへの対策も考慮すると、短期・長期の両面からの経済計画が必要であることを理解する。	○	○	○	・授業態度 ・ワークシート（活動） ・プリント学習 ・定期考査
			2. 収入と支出のバランス	・家庭の収入と支出を通して家計の構造を理解する。 ・家庭の生活を支える収入と支出の運営など、家計の管理について理解する。	○	○	○	

3 学 期		3. 将来の経済生活を考える	・家庭経済と国民経済とのかかわり、経済社会の変化が家庭経済にさまざまな影響をおよぼしていることを理解し、家庭の経済計画、予算計画の必要性を認識する。	○	○	○	
	12	第2節 消費者問題を考える					
		1. 契約とは	・財・サービスの購入はすべて契約であることを知り、契約の重要性を理解する。 ・消費者被害の事例を通して、消費者被害の状況を理解し、消費者被害が起こる原因を考える。	○	○	○	・授業態度 ・ワークシート(活動) ・プリント学習 ・定期考査
		2. 消費者問題はなぜ起こるのか	・消費者として適切な意思決定のもとに権利を行使し、責任ある消費行動を取っていかうという態度を養う。	○	○	○	
		3. 多様化する支払い方法とリスク防止	・販売方法、支払い方法が多様であることを知り、購入時に適切な判断が必要であることを理解する。 ・消費者信用について理解し、利用に際しては、慎重に行う意識と対応策を身につける。	○	○	○	
		4. 消費者の自立と行政の支援	・消費者関連の法律が制定され、国や各都道府県の機関が設置されていることを理解する。 ・消費者は、生産者や行政に自分たちの意向を伝え、その実現に向けての義務と責任があることを理解する。	○	○	○	
	1	第3節 持続可能な社会をめざして					
		1. 消費生活と持続可能な社会	・現代の消費生活が資源を枯渇させ、環境に悪影響をおよぼしていることについて考えさせる。 ・次世代に負の財産を残さないよう、環境の保全に取り組む責任があることを認識する。	○	○	○	・授業態度 ・ワークシート(活動) ・プリント学習 ・定期考査
		2. 消費者市民社会をめざして	・環境負荷の少ない生活をめざして、生活意識や生活様式を見直し、環境に調和したライフスタイルの確立をはかる。 ・環境にやさしい消費行動を具体的な項目で示し、周囲と協力しながら実践する姿勢を身につける。 ・消費行動を通して社会に参画することができる。	○	○	○	
		3章 充実した生涯へ					
		1. 超高齢社会を生きる	・長くなった人生を、可能な限り充実させるには何が必要か、自分たちはどう老いていきたいかを考える。	○	○	○	・授業態度 ・ワークシート(活動) ・プリント学習
		2. 人生のなかで高齢期をとらえる	・高齢者の身体的特徴と心理的特徴の概要について理解する。	○	○	○	
		3. 高齢期の生活	・ノーマライゼーションの視点から、高齢期になっても誰もが安心して自立的な生活を送ることができる社会について理解する。	○	○	○	
	3	4. 高齢社会を支える	・近年の高齢者福祉の基本的な理念や社会の現状と今後の解決すべき課題について理解する。	○	○	○	
5. 充実した高齢期へ		・高齢期の人たちにとっての、地域での生活の大切さを理解する。	○	○	○		

<学習評価の方法>

- ・2学年の観点別評価の評価区分は、3段階ABCとする。
- ・3学年の評価は1・2学期は100点法で素点評価とし、学年末は5段階評価とする。
- ・毎学期の期末考査の成績、ワークシート、課題の提出状況・提出内容・実習への参加態度、活動状況などを総合的に評価する。